非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 9 月 20 日　月刊第 218 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　日本母親大会全体会・記念講演要旨　島　洋子
2 面　日本母親大会問題別集会「平和と民主主義」講演要旨　渡辺　治
4 面　「日本会議の研究」勉強会・報告
5 面　2017 年うたごえ全国祭典実行委員会発足
いしかわ市民連合第 2 回意見交換会報告
6 面　＜会員リレーエッセー＞
固有性の発揮こそ地域発展の要　永山孝一
反核医師の会のこと　原 和人
7 面　＜独標＞あれから　高久晴美
編集室より
8 面　シリーズ 石川地域点描　中西　優
絵手紙コーナー　中山清子
非核平和・掲示板

日本母親大会全体会・記念講演

いのち輝く平和な沖縄・日本を

琉球新報社編集局政治部長　島　洋子

沖縄の基地経済と抑止力への誤解を明解に話された島さん

沖縄の二つの神話

沖縄には全国の米軍専用施設の約七四％が集中しており、沖縄県民は基地の整理縮小を図り、負担の軽減を求めてきた。しかし、この国には沖縄に基地を置き続ける二つの理由がある。二つとも神話でしかないのだが、多くの国民には「基地経済」「抑止力」に対する誤解がある。

沖縄は「基地で食っている」

私は東京支社に勤務して三年の間、沖縄に集中する米軍基地の問題について話をすると、多くの方にこう言われた。「沖縄は基地反対って言っても、基地で食っているんだろう」と。県内外にはいまでも「沖縄は基地で食っている」という思い込みは強い。本当にそうだろうか。

沖縄県の二〇一三年の県民総所得四兆一二一一億円のうち、米軍基地から得られる収入は約二〇八八億円。割合でいうと五・一％である。この収入は大きく四つに分けられる。①米軍に提供している土地の賃貸料、②基地で働く日本人従業員の給与、③米軍が日本企業に工事を発注したり物品を購入したりする調達費、④沖縄にいる米軍人・軍属とその家族約五万人が基地の外の民間地で買い物などをする消費の推計値である。①の土地の賃貸料約八三〇億円、②の基地従業員の給与約五〇〇億円で、この二つで基地収入の七割を占める。実はこの土地の賃貸料と基地従業員の給与は「思いやり予算」という名前で日本政府が支出している。

逆に、米軍基地であるより、返還された方が沖縄経済に大きなメリットを生み出すことも明らかになってい

花鳥風月

戦前、天皇制政治のもとで主権在民を主張し、侵略戦争に反対したために、「治安維持法」等で弾圧され多くの国民が犠牲を被った▼治安維持法等による犠牲者は一九二五年制定から廃止されるまでの二〇年間で逮捕者は数十万人、警察署で虐殺は九五人、刑務所・拘置所内で虐待・暴行・発病などによる獄死者は四〇〇人余になる。石川県内では、名誉回復も無く、謝罪も賠償もないままに犠牲者は亡くなり現在、生存者はいない▼治安維持法は二五歳以上の男性に限った「普通選挙制度」を成立させた裏で共産党政策綱領思想の広がりを阻止するために制定された。治安維持法等による弾圧は日本の侵略政策が強められ、戦争が泥沼化と社会的矛盾が深刻化することと相呼応して強化された▼侵略行為に対する反省と謝罪の気持ちを抱くことを安倍首相をはじめとする改憲派は「国辱史観」と誹謗中傷している▼二〇〇四年国民保護法、二〇一三年特定秘密保護法、二〇一五年平和安全保障関連法（戦争法）、先の国会で盗聴法を改悪▼九月の臨時国会に「共謀罪」の名を変えた「テロ等組織犯罪準備罪」の提出を準備している。「緊急事態条項」と併せて、これら一連の安倍政権の危険な狙いを知らせ廃案の国民運動を（平）。

る。

那覇市の北に「那覇新都心」と呼ばれる地区がある。東京ドーム四二個分にあたる二一四ヘクタールの土地は、かつては牧港ハウジングエリアという米軍人専用の住宅街だった。その土地は沖縄が一九七二年に日本復帰してから徐々に返還され、一九八七年に全面返還された。その後開発が進んだ結果、いまは県立美術館・博物館があり、県内で二番目に大きなショッピングセンターがあり、県内で最もにぎやかな街になっている。

この土地が基地だったころの直接経済効果は年間五二億円だったが、いまは年間一六三四億円となり、三二倍もの経済効果を生み出した。働く人は、基地の時は四八五人だったが、現在は一六四七五人となり、三四倍もの雇用を生み出した。

このように基地であるより、返還されて県民が利用できるようになった方が、沖縄に経済的利益をもたらすことが県民の目に見えて分かるようになってきた。

基地が沖縄振興の阻害要因

しかし、「基地あるゆえに多額の振興予算を政府からもらっている」という声もある。

税収の豊かな東京都以外の四六道府県は、地方交付税や国庫補助金という名目で国から予算措置されている。沖縄の場合はその総額が三〇〇〇億円台である。道路を造ったり、学校を改修したり、福祉関係の予算など、どの道府県も国から予算措置される費用が入っている。

それでは、沖縄は国から予算を特別にたくさんもらっているのか。他道府県に比べて多いのか。人口一人当たりの国からの予算額で、沖縄県が全国一になったことは復帰後四四年間、一度もない。四位から一一位の間だ。上位ではあるが、全国一もらっているというわけではない。

仲井真県政時代に沖縄の一〇年総合計画である「沖縄二一世紀ビジョン」をつくった。そこには「米軍基地は沖縄振興の阻害要因だ」と書いてある。「基地が沖縄振興の阻害要因」というのはいまや沖縄県民の共通認識となりつつある。

在沖米軍は「抑止力」

もう一つの神話は在沖米軍は「抑止力」というものだ。日本政府は沖縄に米軍基地を置く理由として、「沖縄は地理的優位性」があり「抑止力」になっていると説明してきた。

だが、米国の論理は違う。米クリントン政権で普天間飛行場返還の日米合意を主導したジョセフ・ナイ元国防次官補は、沖縄に集中する米軍基地について「弾道ミサイル能力向上に伴って、その脆弱性を認識する必要が出てきた。卵を一つのかごに入れれば、すべて壊れるリスクが増す」と指摘した。つまり沖縄に米軍基地が集中する状態は、ミサイル一発で打撃を受ける、かごの中の卵のように弱い、と言っているのである。沖縄から見れば、米軍基地のために沖縄自体が標的になる危険がある、ということである。

沖縄は国土面積の〇・六％しかない小さな島だが、全国の米軍専用施設の七四・四六％がある。沖縄の基地負担軽減の象徴である米軍普天間飛行場を移設なしに返還したとしても沖縄の基地負担は、七四・四六％が七四・〇七％になるだけだ。沖縄の基地負担軽減をうたう日米両政府は、わずか〇・三九％の軽減さえ実行できず、普天間の代わりに新たな基地を名護市辺野古に造ろうとしている。

二本の滑走路に、強襲揚陸艦が接岸できる桟橋、弾薬庫を備えた、普天間飛行場よりも機能強化された新しい基地を辺野古に欲しいのはいったい誰なのだろうか。

（文責　非核・いしかわ編集部）

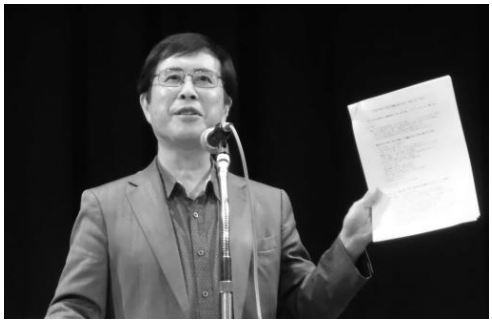
◎八月二一日、石川県産業展示館で開かれた第六二回日本母親大会全体会の記念講演要旨です。講師の島洋子氏が「沖縄の二つの神話」について話されたところの紹介です。

講演要旨

日本の平和と民主主義

～私たちは今、何をしていくのか～

一橋大学名誉教授　渡辺治



平和と暮らしを守る総がかりのたたかいを力説された渡辺さん

はじめに

戦後七〇余年、安倍内閣の策動で戦後の日本の平和と民主主義は最大の岐路に立たされている。しかし五五年ぶりに戦後初の国政選挙での共同が成立し、新段階に入った。

戦後日本の平和と民主主義
～中身の豊かさと共同～

日本国憲法は米国の指導の下につくられたが、五〇年代に入り、日本が軍国主義化しないというだけではアジアの平和は守れず、台頭する社会主義をくい止めるべく、憲法を改変させる動きが出てきた。それに抗して最初の平和と民主主義を守る運動が生まれ、それが土台となった。

その特徴の第一は、侵略戦争を防げなかったという反省と、再び悲惨な戦争を繰り返さないという強い思いがあったことである。

第二は、「平和」と「民主主義」が対の概念として掲げられたのは日本だけだということである。それは安保闘争等をとおして社会党と共産党が初めて共同する契機となり、自民党も三〇年間、憲法改定も海外派兵も言えなくなった。

六〇～八〇年代は憲法を実現するたたかいの一方で、原水禁運動の分裂や社公合意などで共同が壊れていった時代でもある。しかし個の力が強かったので、自民党政権と平和と民主主義の運動は何とかバランスを保っていた。

九〇年代に入ると冷戦が終わり、米国は自由市場を「守る」ための世界の憲兵となって戦争を起こすようになり、憲法改悪や自衛隊の海外派兵を要求するようになった。同時に新たな市民運動も登場し始めた。それまでは再び戦争の惨禍を繰り返さないというものであったが、共同への市民のイニシアティブが発揮され始め、アジアにおける被害と加害、そして戦争責任の問題が市民運動の中で捉え返された。八九年の総評解散は労働運動が全体の蝶番になることが困難になった典型であった。そのなかで九条の会などの市民運動が主導権を握って共同と連帯をつくっていくようになった。

そして昨年、安倍内閣が戦争法案を出したことを契機に、平和と民主主義の運動は本格的に政権に対峙するものとして現れ、新しい段階に入った。

平和と民主主義の新たな地平
～反対運動の新しい特徴～

安倍内閣が提出した戦争法に反対する運動は昨年、大きく盛り上がり、三つの特徴を切り拓いた。

第一は、それは運動の高揚がつくりだした、苦渋を乗り越えての五五年ぶりの共同である。

第二は、安保や自衛隊で一致できなくとも、海外での武力行使に反対だという点での一致は、「平和」と「民主主義」を守る幅広い新たな共同となった。そして戦後初めて「立憲主義」が語られ始めた。

第三は、戦争法強行採決後も廃止をめざして共同が持続しており、選挙を含む連帯へと、更に発展していることである。

安保条約・自衛隊・憲法改悪に反対することでは元々一致していた。運動論や政策面で激しい対立をしていた勢力が現代において一緒に行動することは、五五年前に比べてはるかに困難であった。連合と全労連は、どんなに課題で一致していても、共闘は不可能だった。このような状況下で、〝戦争法に反対しなくていいのか〟〝対抗するためには共同する以外ないではないか〟という声の中で、ようやく『戦争させない・九条壊すな！総がかり行動実行委員会』型の共同が生まれた。そして国会内外における共闘の積み上げの中で、共同の文化と信頼を醸成し、各分野の運動を促進している。

平和と民主主義の新段階
～共同が切り拓いたもの～

一六参院選の結果は、安倍自民も前進、野党共闘も前進という二つの顔を示した。それは安倍政権は比例得票率・数で前進したけれども、野党共闘は一人区において個別野党の合算を越えての得票に成功した。これは政権党に代わるこの受け皿が国民に受け入れられたことを示している。

民進党は前進したが、共闘しなければ二二議席以下である。民進党はこの方向を強化し、護憲と福祉の党に脱皮する以外、躍進の展望はない。共産党は共闘主軸政党としての信頼を得た。この方向しか目標達成の道はない。

結びにかえて

安倍改憲の焦点は、改憲多数派の動向と改憲阻止の野党共闘分断の画策の推移にかかっている。

憲法を守ってきた平和と民主主義に確信を持ち、そのために私たちはいま何をすべきかを見据え、平和と暮らしを守る〝総がかりのたたかい〟を繰り広げねばならない。戦争法反対運動は、憲法の生きる社会への第一歩なのである。（拍手）

（文責　非核・いしかわ編集部）

◎八月二〇日、石川県文教会館における第六二回日本母親大会・問題別集会「平和と民主主義」での渡辺治氏の講演要旨です。

勉強会の報告

『日本会議の研究』を読み解く

九条の会・石川医療者の会

参院選で改憲勢力が三分の二議席を獲得し、憲法改悪が現実味を帯びてきたことを受け、九条の会・石川医療者の会では九月八日、安倍政権と歩調を合わせて憲法「改正」運動を展開させている「日本会議」と呼ばれる団体のことを知るために、『日本会議の研究』（菅野完著、扶桑社新書二〇一六年五月）という著書を題材に勉強会を開いた。

当会の喜多徹世話人による報告要旨を紹介する。

◇　◇

安倍政権に強い影響力を持つとされる組織「日本会議」は一九九七年に発足しているが、その前身は「日本を守る会」と「日本を守る国民会議」の二団体である。「日本を守る国民会議」は元号法制化などを主導してきた歴史があり、設立は一九七八年。また、保守系宗教団体でつくられた「日本を守る会」の設立も一九七四年ととても古い。

日本会議の研究

菅野 完

「右傾化」の淵源はどこなのか？

「日本会議」とは何なのか？

宮台真司氏（社会学者）推薦！

"「ネトウヨ」のごときレッテル貼りは、対立を補強する以上の意味を持たない。「何が何をもたらしたか」を見極めない限り、我々は表層を撫でるだけで終る。本書は、社会の病化による必然と歴史の偶然が織りなす綾を、見事に描いた。"

定価：本体800円＋税　扶桑社新書 212

日本会議の研究

菅野 完

「右傾化」の淵源はどこなのか？

「日本会議」とは何なのか？

宮台真司氏（社会学者）推薦！

"「ネトウヨ」のごときレッテル貼りは、対立を補強する以上の意味を持たない。「何が何をもたらしたか」を見極めない限り、我々は表層を撫でるだけで終る。本書は、社会の病化による必然と歴史の偶然が織りなす綾を、見事に描いた。"

定価：本体800円＋税　扶桑社新書 212

日本会議は地方支部を通じ、あるいは別働団体の地方支部や地方協力団体を通じ、地方議会の議員に働きかけ、次々と請願書や意見書を採択している。注目すべきは、「改憲」を求める意見書採択の動きが、第二次安倍内閣成立後のここ数年の間に、一気に推し進められてきたという点である。

「憲法改正の早期実現を求める地方議会決議」が最初に採択された事例が、二〇一四年二月の石川県議会だった。この時提出された意見書は、日本会議の案文そのままであったという。その後、自民党本部から各都道府県連に石川県議会の意見書を参考にするようにと通達が出され、二〇一四年から二〇一五年にかけて一気に意見書採択の動きが広まることになった。

◇　◇

安倍政権は、①「緊急事態条項の創設」、②「憲法二四条を改変し家族条項を追加すること」、③「憲法九条二項を改廃すること」の三つをこの順番で変えていく準備を進めている。

戦後ＧＨＱの改革で個人の権利や言論の自由が保障されたことで日本人が道徳的に退廃し、国家に誇りを持てない国になってしまった。ＧＨＱに解体された国体を復活させなければいけないというのが目的であると考えられている。

◇　◇

日本会議は突如現れた怪物組織ではない。運動手法や手口を徐々に発展・進化させ、神社本庁や他の新興宗教団体の支援を受けつつ運動組織を巨大化させてきたものの、半世紀近くも前から同じような運動を執拗に繰り返してきただけなのである。本来の目的は出さずに「加憲」等マイナーチェンジしながら小さい改憲を続け、最後に大意を果たそうというのが彼らのやり方である。

日本国内はもとより世界的に格差が広がり、不満、不安の多い社会となった。何か拠り所がほしくてヘイトスピーチのような排他的な言説や不寛容な風潮を求める土壌が作られるのもわからなくはないし、「美しい国」を称揚する安倍政権や日本会議の主張に共感したくなる気持ちも理解できる。

しかし、本当にそれでよいのだろうか。格差社会や不寛容な社会になったのは、戦後作られた憲法のせい？教育のあり方のせい？そんな短絡的な問題ではない。日本会議の動きは今に始まったことではないが、今頃になって日本会議の事態を暴く本などが相次いで出版されるようになっているのはなぜか理由はわからないが、メディアの果たす役割は今後ますます重要になってくる。

いま、日本社会全体が右傾化しているかのように報道されることがあるが、安保法制の強行採決等安倍政権の無軌道な暴走に強固に反対するＳＥＡＬＤｓに代表される若者たちも出現している。市民連合と野党共闘による選挙戦もそれらに対抗する手段の一つだ。

今後も日本会議と安倍政権の危険な動きを注視していく一方で、その動きに危機感を持つ市民や若い世代の連帯が広がっていることも見ていく必要があるだろう。

（報告　橋爪真奈美）

非核・平和のひろば

『二〇一七日本のうたごえ祭典 inいしかわ・北陸』

実行委員会・発足集会の報告

八月二七日に石川県文教会館において、発足集会が県内外から約七〇人の参加で開かれ、田中嘉治日本のうたごえ協議会会長や県内の世話人代表から激励の挨拶がありました。

石川のうたごえ協議会は、来年の全国祭典をこの地域の『うたごえ運動』が担うことは、うたごえの名曲の初披露という意味で歴史的であることと、世代的継承や文化のネットワークを構築する貴重な機会として捉えており、会は関係者の意気込みの場としたいと開かれたものです。

〝文化は武力行使の最大の抑止力〟であるが故に、非核・平和の運動と直結する旨の発言もあり、来年の成功に向けて結束を固める集会となりました。

（報告　中村昭一）

いよいよ動き出した『うたごえ全国祭典』実行委員会

いしかわ市民連合

第二回意見交換会を開く

市民と野党共闘の接着剤に

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める！いしかわ市民連合（以下、市民連合）が九月七日、ITビジネスプラザ武蔵で開いた賛同団体、賛同人による第二回意見交換会での主な意見を紹介する。

◎一人区の全国比較でみると地域毎の生活に根差した個別テーマを「争点化」できたところは勝利している。安保法制や立憲主義との関わりで石川県内の個別テーマをどう掘り下げたのか。また市民連合の取り組みは金沢市中心であり、今後は県内全域に広げる必要がある。市民連合は今後どうするのか。市民運動としての領域、深さ、広さが問われている。

◎今回の参議院選挙では多くの青年たちの自発的な行動参加があった。青年たちの街頭宣伝のアピールも生活要求にもとづき進化し、素晴らしい内容だった。今後に希望が持てる選挙だった。

◎今日の参院選総括報告で、市民連合は「多様な市民団体、政党、労組等が担う運動に対してリスペクトを払いつつ、それらの『接着剤』となりながら、政治や運動へのチャンネル・窓口を多様に開いていく」と提案され、市民連合の果たす役割がよくわかった。

◎石川県でも野党共闘が実現し、志位さん、小沢さんが揃って金沢駅前で街頭宣伝する、金原県議が共産党演説会で挨拶するなどこれまで想像できない動きが起きた。安倍政権による憲法改悪を阻止するため市民連合が果たした役割を肯定的に総括し、次に備えること。

◎選挙期間中、北陸中日新聞に掲載された政策アンケートでは柴田候補の回答が不十分だった。選対本部の政策立案能力に問題あり。

◎全国の市民連合や他府県の市民連合との連携、情報共有は大切にしてきたが、石川県独自の生活に根差した要求の掘り下げは不十分だった。これまで九条の会・石川ネットなど八団体は大学教授など著名人を招いた学習講演や県民集会を開いてきたが、敷居が高くて参加できない人たちもいる。市民連合の会合や街頭宣伝では一般市民が発言できる場をつくること、参加のハードルを低くした取り組みを重視している。

◎市民連合には二つの役割がある。一つは、「一強多弱」の政治状況のもと、安倍政権を倒すため野党共闘の「接着剤」となること。二つ目は、自覚的な市民が政治の主体者となる場をつくることである。市民連合の三つの大義（安保法制の廃止、立憲主義の回復、個人の尊厳を擁護する政治の実現）が抽象的であり、市民の生活実感に十分に結び付けられなかった。時間不足もあり、TPP、志賀原発、小松基地問題など政治と生活のつながりを「争点化」できなかったことが敗因である。これからは各分野の市民団体の「接着剤」となり、選挙の争点に押し上げていくことが大事。

◎参院選で野党統一候補が勝利した選挙区は、自民党政治による構造改革で痛めつけられて命や生活と直結した「争点化」ができたところ。これは市民連合だけで担うことはできない。各分野の運動団体「敷布団」との共同の取り組みがいっそう重要だ。

◎いしかわ市民連合の英語表記はUnited Citizen　連帯している市民＋団体参加である。従来からの「敷布

団」の運動団体は過去のいきさつがあり、共同の取り組みが困難である。「掛布団」である市民連合は〝接着剤＋柔軟剤〟の役割を担い、市民と運動団体、野党共闘の架け橋の役割を期待したい。次回の衆議院選挙は「政権選択」選挙と云われているが、政権交代に至らないまでも国の政治のあり方に影響を与える選挙にもなる。野党共闘には克服すべき点がたくさんあるが、連立政権を射程においた取り組みが大事である。

◎最近、自民党青年部と意見交換する機会があった。彼らの意見を聞くと「左翼の人は文句ばかり言って、人の意見を聞かない」「自民党の議員は野党の悪口を言わない」という。自民党の勉強会に参加したり、青年部の人たちと交流すると私たちの欠点も見えてくる。

◎参議院選挙での自民党の得票率は、石川県は全国第二位である。このような石川における市民連合はどのような「器」となるべきか。市民連合は〝接着剤＋柔軟剤〟にという話も出ましたが、多種多様な市民が参加できる「器」をつくり、市民の声や願いをしっかり受け止めて次に備えていきたい。

◎県内の地域を網羅した市民連合の広がりが今後の課題である。もっともっと広げて市民の目線に学び、多様な人たちが結集できるような市民連合をめざしていきたい。

◎SEALDsの運動の組み立て方、様々な動き、主張や願いを「絵」として表現する演出方法にも学んでいきたい。石川県でもこれまでの市民連合の取り組みを通じて、青年たちの活躍が目覚ましく、市民運動の世代間継承の機会にもなっている。

◎次回は一〇月一一日（火）午後七時、近江町交流プラザで賛同団体、賛同人の皆さんの意見を聞く機会（第一回いしかわ市民連合ミーティング）を計画している。

（報告　神田順一）

非核石川の会　リレーエッセー

固有性の発揚こそ地域発展の要

永山孝一

エメラルドグリーンとマリンブルーの海、パウダースノーの真っ白なビーチ。初めての宮古島の大景観に見とれ、久方振りの日焼けに遭ってしまった。沖縄本島からは南西に三〇〇㎞。面積二〇四平方㎞の三角形の島。人口五五〇〇〇人の大部分は港がある平良地区に集中している。東に平安名岬が太平洋に突き出し、北に池間島と西平安名岬、南に与那覇前浜と来間島、西に伊良部・下地島へ渡る伊良部大橋の大景観などは見ものだ。

日本一のドライブスポットとの売り込みで昨年の一月開通したばかりの伊良部大橋（全長三五四〇ｍで通行料金なし）を渡る。佐良浜港にレンタカーを停め、エージェント企画によるボランティアガイドの案内で、傾斜地に建つ佐良浜の街並と漁師の住まいを訪ねた。御嶽信仰や水を尊ぶ習慣、自然の猛威と住民の結束、地区成立の歴史やカツオ一本釣り漁、ソロモン諸島まで出掛ける南方漁業のことなど、楽しくお聞きすることが出来た。

羽田空港からの直行便も三月から就航し、島は観光受け入れ施設の建設で盛り上がっている。平坦な島で本土のような清流はないが、飲料水は琉球石灰岩層の豊富な井戸水を利用している。金沢も南は有松・貴船神社から、北は鳴滝神社での弁慶の話のように、街づくりの根幹には「水」がある（註）。佐良浜の密集した街を歩くと、米軍戦闘機が落とした燃料タンクを天水桶に利用していた。人の住むところ形は違っても共通の原理――平和と安全を願う――の大切さを教えられる旅だった。

註　金沢・北国街道北端の大樋町には鳴滝神社〔弁慶が滝の水を汲んで飲み「鳴るは滝の水」と詠ったという〕が、南端の有松には貴船神社〔京都鞍馬に総本社。祭神は水の神様〕があり、水を尊んだ往時のまちづくりが偲ばれる。（「木構造文化と町家・町屋―金沢」）

美しい宮古島・前浜ビーチ

反核医師の会のこと

原　和人

私は、数年前から全国反核医師の会の共同代表をしています。戦後、米ソの冷戦体制の中で核戦争の危険性が高まる中で、一九八〇年核戦争防止国際医師会議（ＩＰＰＮＷ）が設立され、一九八五年ノーベル平和賞を受賞しました。日本でも、核戦争において医

師は患者のいのちと健康を守ることができない、いのちを守ることを使命とする医師は核戦争に反対し核兵器をなくすことに努力しなければならないとして、一九八七年、保団連や民医連の医師が中心になって反核医師の会を結成しました。来年で三〇年を迎えますが、初代の共同代表は苗昭三先生でした。

核兵器の廃絶・禁止や平和を実現することを目的にしたＮＧＯは数多く存在しますが、職種で核兵器を廃絶することを目的に組織されているＮＧＯはそれほど多くはありません。現在、日本で活動しているのは、医師以外に、弁護士の反核法律家協会、宗教者の日本宗教者平和協議会ぐらいでしょうか。

2014年8月　ＩＰＰＮＷアスタナ大会にて
「はだしのゲン」ロシア語版を大会会長に寄贈

今年は、昨年の国連総会の決議に基づき、ジュネーブの国連欧州本部で核軍縮に関する国連作業部会が開催され、核兵器禁止条約の交渉開始に向けた動きが強まっています。しかし、核保有国をはじめ日本などの「核の傘」にある国々は、核兵器禁止条約の交渉開始は時期尚早として、これらの動きに抵抗しています。

最近、国連の決議にも、核兵器の禁止のために、各国政府の役割とともにＮＧＯや市民運動の力に期待するという文言がよく見られます。やはり世論の喚起が重要です。世論の喚起のキーポイントは、「核兵器の非人道的な結末」です。二〇一〇年以降の核兵器廃絶を求める運動の高揚は、この「非人道的な結末」を軸に動いてきたと言っても過言ではありません。

ヒロシマ・ナガサキの実相にまさる「非人道的な結末」はありません。核兵器の廃絶を求める日本のＮＧＯの一員として、そして医師の団体として、これからも核兵器の「非人道性」を世界の多くの人々に訴えていきたいと考えています。

（写真左が筆者です）

詩人会議かなざわ「独標」より

あれから…

高久　晴美

五年という月日
変わりゆく街　変わる想い
温度差を地域差を
見なかった事にして
不満、不安、公平、不公平
ない混ぜにして続く日常で
揺れ動いた
遠い場所

忘れたかった緊急地震速報の音に
胸が痛くなる

混乱の中
他人事という立ち位置で
言いたい事をたれ流し始める
そんな中
虎視たんたんと
自然は次を狙い
私達を試す　幾度も試す

だから今
自分の出来る事を
それが何か考え動く
行政などという幻想を
ひとまず　うっちゃる
まずは
深呼吸する

《編集室より》

◎この九月一九日に民意を無視して〝戦争法〟が強行採決されて一年、このところ非核・平和を願う国民にとって耳を疑う事態が連続して起きています。

三日のアジア政党国際会議（ＩＣＡＰＰ）第九回総会最終日では『クアラルンプール宣言』の仕上げの段階で「核兵器禁止条約」と「領土問題は国際法を基礎に解決」の言及について二転三転し、〝核兵器禁止条約の交渉開始〟の支持・呼びかけが削除されるという重大な後退がありました。

また北朝鮮は五日、弾道ミサイル三発を日本海に向け発射（今年三度目）し、日本の防空識別圏内に侵入して排他的経済水域に落下させ、加えて九日には五度目の核実験を強行するに至りました。これは、核兵器禁止条約の交渉を来年中に開始するよう勧告した国連特別作業部会の報告が出されるなどの国際社会の新たな前進に対する、真っ向からの挑戦であり、暴挙です。

（八面につづく）

大きな目で見ると、核兵器固執勢力は、核兵器禁止条約の交渉開始を求める国際世論と圧倒的多数の国連加盟国によって、追い詰められています。

未来は、『核兵器のない世界』を目ざす国際世論と市民社会の運動の側にあることは明白です。ここに確信をもって力を尽くすことが肝要です。

折しも三日、金沢市平和町において陸上自衛隊の隊員約三〇〇人が一般道六〇〇メートルを迷彩服に身を包み、小銃を担いで軍事パレードをしました。戦前ではなく二〇一六年の現代日本の光景から、かつて辛酸を味わった方々は、何を思うのでしょうか。（中）

シリーズ 石川の地域点描 ①

フォトグラファーの中西 優さん

皆さんこんにちは。フォトグラファー（カメラマン）として北陸を中心に活動している中西優です。新聞記者を経て今年春に出張撮影専門の「M's photography」を開業し、結婚式や成人式などのイベント撮影を中心に活動しています。県内の季節の移り変わりやおススメのスポットをご紹介します。

＊「M's photography」HP
http://www.ms-photography77.com

光あふれるひがし茶屋街の雨の夜

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班
中山清子

≪非核平和・掲示版≫

月	日	曜	時	内容	場所
9	22	木・休日	11:30	第26回石川県解放運動戦士合祀追悼集会	金沢市卯辰山鈴見緑地
	22	水・休日	14:00	石川革新懇総会と講演　元狛江市長 矢野裕さん	金沢市北安江金沢勤労者プラザ
	24	土	13:30	日朝協会・日中友好協会　合同公開学習会 「最新の北東アジア情勢」 講師　秋元邦宏さん	金沢市昭和町平和と労働会館3階
	24	土	13:30	寺町台九条の会 学習会　講師　須藤春夫さん 「信じていいのか テレビ、新聞の情報」	金沢市十一屋町いきがい交流館
	25	日	13:00	核兵器廃絶国際行動デー「街頭署名」	金沢市香林坊アトリオ前
			14:00	同上　映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」 核戦争を防止する石川医師の会	石川県香林坊教育会館3階ホール
10	2	日	9:30	「はだしのゲン」中国語繁字版出版記念講演 中澤ミサヨさん・坂東弘美さん	金沢市近江町交流プラザ4階
	6	木	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	8	土	10:00	平和サークル むぎわらぼうし30周年記念パーティ	石川県女性センター4階コンベンション室
	11	火	19:00	いしかわ市民連合第1回ミーティング	金沢市近江町交流プラザ4階研修室
	15	土	12:00	沖縄と連帯する宣伝と署名行動	金沢市武蔵町Mza前
	19	水	16:00	戦争させないピースステント	金沢市いしかわ四高記念公園中央口
	20	木	18:30	戦争をさせない石川の会 映画鑑賞会「ひとりっ子」	金沢市近江町交流プラザ4階研修室
	22	土	16:00	新日本スポーツ連盟創立50周年講演とレセプション 講演「科学的トレーニングについて」山崎健さん	金沢市本町金沢都ホテル
	22(土)～23(日)			2016年日本平和大会in三沢	青森県三沢市
11	3	木・休日	14:00	「戦争法廃止！憲法壊すな」石川県民集会 講演［週刊金曜日」発行人　北村肇さん	金沢市下本多町金沢歌劇座　大集会室
	9	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	27	日	11:30	原水爆禁止石川県協議会創立60周年レセプション	石川県平和と労働会館3階ホール

＊ 祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口